

宮古弁「百人一緒かるた」読みれ一覧

1	あぐぬぎに 手間が かがつとも すたみは うんめえがねんす	アク抜きは手数だが どんぐりはおいしいですね
2	あねさんが こっさぐ ひゆうずは まるで うんまごぜんすがえ	嫁さんが作るひゆうずは とてもおいしいですよ
3	あの穴は はやりだーがら すとねー されねーんだあど	あの穴はファツションだから つぎあてされないそうだと
4	あのおがすー お菓子 ぺえーんこけどがんせ	あのお菓子を少し下さい
5	あーりいえー いづまでたつても らずが あがねえもんだーごど	長い時間かかっているのに はかどらない
6	家ではだげる馬は ほがさ 行つても はだけるづうがなあ	家でできない子どもは よそに行つてもきかなくなる
7	いすけんず いすまつたいまつ はさみが さんぼん きゅつきゆの きゆ	じゃんけんの掛け声
8	いづばん切れる はいぞーど せーばんを たんねーで きとがんせ	一番切れる包丁とまな板を 持ってきてください
9	インボートーレエ カーラグマンゼー いでえどこい でえどこ 向げえ山さ飛んでゲ	子どもがどこか痛くした時の 痛み止めのおまじない
10	うんながどう、 そこは 沼だーが つつぺえーんな	おまえたち そこは沼だが、ふんごむなよ
11	うんめえねえ あずぎばつとう ひゆうずに すつとき	おいしいねえ、 小豆のはつとう ひゆうずに すつとき
12	えーなさん こうやさ 行くに なあど 行くや	これ兄さん、 染物屋にはどう行くの？
13	江戸なんて もんだいでねえー おくまんちよう	江戸八百八丁なんて問題じゃない。 こちらは億萬丁（熊野町）だ
14	「おあげえんせ」 おまんまどきに 通る人	ご飯時に通り過ぎる人がかける挨拶 言葉
15	オースンヨウ オースンヨウ こどすも ゆわすがでえりようで ヨゴダア 持つておでんせどう	小正月行事に鯉ヶ崎で使った囃し 言葉 「今年もイワシが大漁だから、ヨゴ ダ籠を持つてきて」

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
けっけでけっけで 夜も眠られねえーがす	「熊に出っかあしてす はじめでねえ たますぽうろぎしたが」	くぴこのりーせーば 人だがりのがでも よぐめえーんがや	キビチヨウとコビリツコ持ってこっ	からずれこおべーりしてで たごをつったあと	かみいけずってけっけー いんのいどがんすんな	買ってけどがんせ かあーさぎのさがなはいぎっこがいいけえあ	菓子あでえを 少す よづんで ほまづにせんすぴす	ガギわらす かがさんにおこられ こんぼり	おんつあんは スビとりめーずんはんもうど	おんつあまは 「あすたがずんこが うまがったがす	おらあまあはらが へってだあふうで のめすこんでだあーが	おへずれえをまげでも なんにもではんねーが す	おっぱさん ハイカラアして どこさ行げんす？	オツツビル それでだめなら フンズビル
心配で心配で 夜も眠られないんですよ	熊に出会って 今までで一番驚いたよ	肩車をする人ごみでもよく見える	急須とお菓子を持ってきたさい	ふざけてばかりいて、 水にはまったそうだ	髪をとかしてあげるから動かないで	鰻ヶ崎の魚を買ってくれ、 活きがいいぞ	菓子代を少し節約してへそくりに しましょう	腕白小僧、 お母さんに怒られて大泣き	おじさんはマグロ捕り名人の漁師	おじさんは竹馬が上手だったよ	おやまあ ずいぶん腹が減ってたよ うで 流し込むように食べてること	お世辞を言っても何も出ませんよ	おばさん、 おしやれしてどこへ行くのですか	押しつぶす それでだめなら踏みつぶす

4 5	4 4	4 3	4 2	4 1	4 0	3 9	3 8	3 7	3 6	3 5	3 4	3 3	3 2	3 1
隅の粥 スミノゲエー 食いかけ箸の クイカゲハスの うばいいえー	すびれがきれんが おでえーらに めせんせ	すっぱねを きにすて歩く ひなりっこ	すつとぎを あぶつて食うづーと まるでうんめえがえ	ずぐりっこ たでえーで まわすて うならせで	すくとせえー、 でえーずな はなすが きけえねえ	ズーヤン、バーヤン、 おまんまで ごせえんす おひなつとでんせ	正月の遊びは たごあげ コマまーす はねつぎ すごろぐ ふぐわれえ	三王も 浄土ヶ浜も有名で いづ来て見ても 良ごぜんす ごどー	ザンブザンブとまれ ザンブの花 とつてけんが あ	こわえーがなあ、 ゆっこさでも 行つてくびす ねー	これんす これんす ちよつとぎま およれつとでえん せ	このわらす こぐぞぐねえど おごられる	このガギが まあ きかねえつたら、 イスがら ぶくとれだが！	このいそがすうどぎ 町がら 泊まりよーとが 来んがえ
新築家屋の棟上式に四人一組で行なう行事。 熱い粥をフーフー吹きながら食べ、もたもたしてる者の箸を取上げる	足がしびれるから、 ひぎをくずして楽にしてください	泥はねを気にして歩くおしやれさん	すつとぎを焼いて食べると すごくおいしいよ	ずぐりという手作りのコマは紐で叩きながらまわして、ぶんぶんうならせで、ぶつけあつて遊ぶ	静かにしなさい。 大事な話が聞こえないよ	おじいさんおばあさん、ご飯です。 起きて身じまいをしてください。	正月の遊びは風揚げ、コマ回し、ハネツキ、双六、福笑い	三王岩も浄土が浜も いつ来て見ても良いですね	(人差し指をたてて) とんぼ、とんぼ、この指とまれ ツユクサを採ってあげるから	疲れたね、 温泉にでも行ってきましょう	これこれ、ちよつと寄つてください	この子はいたずらで可愛げがない と怒られる	この子はきかんぼうで、 ほらイスから落ちたが	この忙しい時に宿泊客が来るんだよ

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46
にんどまめ まげば とりこが ほつつぐが	なんでもあつて 勝つよう キャーアンデ	七日は 七回はつとう食べで 七回水あべーする	トツコ糸 たぐれば ボロがでる昔	でえすな 本だーすけー ぞせえに しとがんすんな	た でえこの ぬぎなを ノッコライエーど もらつ	つまごを へーだーような みやごべんだあなあ おめさんのは	ちよっぺっこさかな おおさかな ゆわすが とれでも けつたぐねえ	たまげだあ、 ハラノギツツオが とんむぐれだあ！	なべんながの なつぱを とつつあげでけどがん	たぎぎは たんなぎやすぐ わあづがずづ まるぐびす	その たぎぎい かまどさ くぺでけどがんせ	ぜによりも なすたあ わらすが でえすだが くろうすても そだでろ	せえが びんぼうで とんづがねえ さだつがねえば わがんねえなー	ずるばだで あずますぐ のんべえなあ
エンドウ豆を蒔くとすぐに、ハトや キジが食べに来る	グーチョキパーが全部入ったように 出した人が勝ちの、じゃんけん特別ル ールの掛け声	盆の八月七日には、七回はつとうを 食べて七回泳ぐ	絡まった糸をほどくつもりでたぐり 隠している事まで発覚してしまう	大事な本だから粗末に扱わないで下 さい	大根の間引きした葉っぱをいっぱい いただいた	つまごを履いたように、変な宮古弁だ なあ、あなたのは (つまごは、ワラで作った履き物)	告げ口するやつには、イワシがいっ ぱい取れてもあげたくない	驚いて肝をつぶした。(ハラノギツツ オは五臓六腑のこと)	煮えたから、鍋の中の菜っ葉を取り 出してちょうだい	薪は、持ちやすく少しづつ結えまし よう	その薪をカマドに入れて燃してく ださい	お金より産んだ子供が大切だから、 苦勞をしても育てなさい	背が低くて届かない。 踏み台がないとだめだな	炉端で仲良く飲みましょう

7 5	7 4	7 3	7 2	7 1	7 0	6 9	6 8	6 7	6 6	6 5	6 4	6 3	6 2	6 1
街中 まづながで 「ひなりっ」ってさわがれで おそうすがったー がえ	ほれ、 そごらじゆうさ だらめがしてだーが	ほつきり な 堀切が鳴つと北風で、 まづがした な 松ヶ下が鳴つつーど 南風	ほーらみる、 精進 おそうずんが いいがら はれだーべ	ほーぺずり、 うめえぐえーに 来たもんだ	ベエゴのくんだり 下り 嫁 よめの いえーあす 足	ふつつらがすな 足 あすの ふんだでが 無いつか ねーがつか	ひらぐず ヒラグズ いっぺえ 食ったつけあ 舌 すったが われだあなあ	ひなださではって 出 つらかあを こぼがすとがんすんなあ	はつつあがつぺー かだえっぽーだけさ 積 つんだらば	ハスリがら ひてぎー 持って来てけどがんせ	はぐらあしねえように さつぽお かぶって そどさあべ	のんのんど 降 ふっては つもる みやこの 春雪 積 はるゆき	ねーでべえり いる なぎびつつおには まるつきり 勝でねえでは か	ぬぐだまつとがん きょう 今日 は まるで すばれったーが
町の中で「おしやれっ」とと囃されて はずかしかった	ほら、そごら中にだらだらこぼして いるよ	昔、重茂の漁師達は夜中の0時頃、風 の音を聞いて、地球の裏側で何風が吹 いているか判断した	ほら、日頃の行いがいいからお天気 になったでしょう	飲食中のところに突然訪問してお相 伴に預かることをホーペズリという	牛が山から下りる時も、嫁が実家に帰 る時も同じように早	散らかすな。足の置き場が無いよ	サルナシを沢山食べたたら舌が白っぽ く荒れた	日向に出て、顔を日焼けしないように	跳ね上がるでしょ、片側だけに積ん だら	流し台にある「しゃもじ」を持って来 てください	日射病にならないように、帽子をか ぶって外に行こう	宮古では冬の間はあまり降らないの に、二月三月になってから音がするよ うに降り積もる	泣いてばかりいる泣き虫には全然勝 てません	暖まって。今日はすごく冷えている から

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76
ゆむぎが いっぺえ へえった もおづは うんめえがねえ	あぐどーきれいに あらえんすべえ 湯っこさ へえって	やまたの かがす 石を 投げ入れ すてでんぎすて	やっぱりな ぞおーや そーだーど 思ってたあでは	ヤスブタゲ、 はやぐおぎろど せつつがれ	モザペーナス なんぼー買っても すぐこわす	もくもくど あるぐ毛虫が ゲエダガで 毛のねえやづが アズギデーロ	モウコがくっから よんまには うそっぺえ ふがねえんだが	めずらしくて もってーねえが、 たぼすなん で食べっぴす	めぐせーが ながくな、 かーやんが かだきい とってけっけえな	めぐさめんけー むげえのいえーの まごワラス	むがすあ お盆になっつーど あつつこつつで カマツコヤギー したーがなあ	みやごべん わらったやづが つかってる	みずあべの 浜で食う キミは うんめえなあ	みおぐりと 「おようでんせ」と 声をかけ
ヨモギがたくさんはいった草餅は おいしいね	お風呂に入ってかかとをきれいに洗 いましろう	山田の案山子という遊びは杵を書い て、石を投げ入れ片足飛びで遊ぶ	やっぱりそうだと思っていたの	ヤスブは起床を渋ること。 学校に遅れるから早く起きろとせき たてられた	何回買ってやつてもすぐに壊す、 物を大事にしないやつをモザペーナ スと言った	毛虫はゲエダガと呼び、毛のない芋 虫はあずぎでえろという	夜に口笛を吹くと、モウコ（ばけも の）が来ると怒られた	珍しくて勿体ないので大事にいただ きましろう	みつともないから泣くな。かーさん がかわりにカタキをとるから	美人ではないが愛嬌のある向かいの 家の孫	昔はお盆になると、友達同志で海な どで炊事をして食べた	宮古弁を笑った者が使っている。安い メツキははげやすいもんだ	海水浴の浜で食べるとうもろこしは おいしいなあ	（帰りに事故などに会わないように） 見送る人は気をつけてお帰りくださ いと声をかけた

					1 0 0	9 9	9 8	9 7	9 6	9 5	9 4	9 3	9 2	9 1
					わあずがで ごせんすとも おあげつてくたせんせ	ろばださねまつたら むがすばなすう きかせんが	レロレロつて やっぱりおめさん よったぐれ	となりのずさまは ほにほににでる	りんごも 買えんすんが なんぼーが おまげつてくたせんせ	ぶらさげだあ箱こで 銅鉱石を運んだーのす	よったぐれ おどつつあんにかがって ほにほに ごせがやげつこど	昼はござれど 夜はござるな	よぐ見どがんせ サツツが けえつあで ももひきは うっそめーだ	用たすには そこの あうえーこを 通つて行けば つけーがす
					少しですが、お召し上がりください	炉端に座つたら、昔話をきかせるよ	舌がもつれて、やっぱりあんたは酔っ 払つてるよ	類人猿とすごく似ている隣のお爺さ ん	りんごも買うので少し安くしてくだ さい	ラサのテッサグは、田老鉱山から鉄ケ 崎まで銅鉱石を運ぶ箱をぶら下げた 機械	酔っ払つたお父さんには本当に腹が 立ちます	(昔は灯りも少なく、夜に外便所にい くのは怖いので)うんちに、昼に出て、 夜は出ないようお願いした	よく見て。シャツは裏返しで、もも ひきは後ろ前にはいてるよ	用事にはその路地を通つて行けば 近いですよ